

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学経営協議会（平成16年度第2回）議事要旨

1. 日 時 平成16年7月15日（火）14:00～16:00

2. 場 所 事務局棟2階 大会議室

3. 出席者 鳥居学長（議長）
安田理事、山本理事、北田理事
相磯委員、新本委員、江口委員、三木委員

欠席者 田中委員

陪席者 佐藤監事

（事務局） 井之上総務部長、小島研究協力部長、田保橋総務課長、
中條企画室専門員、北村企画室員

（配付資料一覧）

1. 経営協議会（第1回）議事要旨（案）
2. 平成16年度の年度計画の実施に関する検討資料（カテゴリー別）
- 3 - 1. 平成16年度大学運営経費配分予算表（案）
- 3 - 2. 平成16年度配分事項及び平成15年度との比較表
- 4 - 1. 平成17年度概算要求に係る重点事項の概要（案）
- 4 - 2. 平成17年度施設整備費等要求一覧（案）
5. 学長選考会議委員について（案）

（参考資料）

- ・ 平成16年度国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学年度計画
- ・ 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学予算配分方針

4. 議 事

（前回議事要旨の確認）

前回議事要旨（資料1）について、承認された。

（報告事項）

- （1）年度計画（平成16年度）の実施について
安田理事から、資料2に基づき、報告が行われた。

（審議事項）

- （1）平成16年度予算について
北田理事から、資料3 - 1及び3 - 2に基づき説明が行われ、審議の結果、承認された。

(2) 平成 1 7 年度概算要求に係る重点事項の概要について

北田理事から、資料 4 - 1 及び 4 - 2 に基づき説明が行われ、審議の結果、承認された。

(3) 学長選考会議委員について

議長から、資料 5 に基づき説明が行われ、審議の結果、学外委員全員を学長選考会議委員とすることが承認された。

以 上

【参考】委員からの主な質問・意見等

年度計画（平成16年度）の実施について

- ・年度計画の実施について、ここまで整理されているものは他大学では現在のところ例がなく、大変素晴らしいと思うが、これは全大学に課されているものか。
- ・これは本学独自のものである。
- ・年度計画の実施に当たっては、担当理事の負担が大きくなることが懸念され、担当の学長補佐のサポートが重要であると考ええる。
- ・実施計画の段階で、評価のことを念頭において作業されていることは非常に有効であると考ええる。
- ・実施計画に挙げられている各計画について、より詳細の計画があるのか。また、実施計画は学長補佐が担当することとなるのか。
実施計画の中には、本年度に実施するものと、検討にとどめるのものがある。実施するものについては、詳細の計画を策定する。なお、担当は学長補佐である。
- ・この年度計画の実施を通して、どのような特徴のある大学を作ろうとしているのか。例えば国際性など。
博士前期課程及び後期課程のそれぞれにおいて違いが出てくる。後期課程においては国際性を重視する。
- ・国際化教育については、博士前期及び後期の両者を対象としているのか。また、国際化教育を行うには投資が必要であるが、どのように考えるか。
ともに対象としている。具体の計画としては、TOEICの受験を通して学習効果の検証を行うシステムを考えている。
国際化教育の実施については、大学として特に投資を行う予定である。
- ・年度計画にTOEICの実施が挙げられているが、実際には、ディベートなどTOEIC以外のレファレンスの導入も検討すべきではないか。
学生が自主的にサークルを作り、ディベートを行っている。これに対して大学としても積極的に支援していきたいと考えている。
- ・今の学生は自発性に乏しいところが見受けられるので、自発性を誘発し、よい意味での自己主張ができる人間を育てるため、いかによい指導者を見つけるかということが大事である。
- ・学生は、自主的ではないが、考えることは考えており、投げかければしっかりした意見を述べる学生もいるので、いかにして能力を引き出してやるかが重要であると考えている。

平成16年度予算について

- ・企画室等の職員が、海外の大学等の制度を勉強するために海外出張を行うことは非常に効果的であると考えられ、予算計上すべきでは。
研修等の経費は事務局経費の中から捻出することとしており、当該目的のための出張旅費等の支出も可能と思われる。
- ・広報活動のための経費を削減しないようにすべきである。
経費が大きくなった場合には、中期計画推進経費の方から捻出することを予定している。
- ・年度計画実施のための検討に必要な経費は実施のための経費とは別に確保されているのか。予算計上は検討段階と実施段階に分けて考えるべきではないか。
次年度以降の課題とする。

学長選考会議委員について

- ・学長選考会議規程はどこで議論するのか。また、教職員に周知徹底を図るのか。
学長選考会議で決定し、決定し次第教職員に周知する。
- ・現学長は学長選考会議委員となるべきであると考えるので、検討願いたい。また、中期計画と学長の責任の関係を整理すべきである。
- ・学長の任期は、中期計画期間と当該任期のズレを考慮して設定すべきである。
- ・選挙を行うかどうかは今後の課題となるだろう。